

# 麗しの

# 嶽山



高島市の南、ひときわ美しい嶽山が、四季の移ろい癒しの空間を与えてくれています。嶽山の里山に位置する音羽集落内には近江西国七番札所 白蓮山長谷寺があります。ご本尊は秘仏の十一面観音立像、両脇侍には龍王立像・兩童子がおられます。

奈良時代、三尾山(嶽山)には

約30メートルの楠がありました。この木は常に光を放ち白蓮華(白い蓮の花)のようでした。ある時、野火に焼かれた楠が琵琶湖上に流れ出て、大津浦に漂っていたところ、養老4年(720年)大和の国、泊瀬山に住んでいた徳道上人がこの楠の霊木を用いて、十一面観音菩薩像を造るよう発願し神亀4年(727年)に完成しました。この霊木からは、讃岐国志度寺のご本尊も造られました。また、本木(木の根元の部分)からは近江国長谷寺のご本尊が造られたと伝えられ、各寺に本木伝承が今も脈々と伝わっています。

観音菩薩信仰は、我々民衆の苦行を救済するために現世に現れた仏として広く信仰を集めています。

近江国長谷寺信仰は、嶽山の千日詣として毎年7月9日に行われています。その昔、嶽の観音は農耕の馬や牛の守護として信仰を集め、朽木の人人々は、明け方から家を出て徒歩で入部谷を越え、武曾集落に出てそこから拝戸、音羽へと向かい、嶽山の観音堂へと歩みを進めたそうです。まさに民衆信

仰の道そのものと言えそうな光景です。

音羽集落東手の小田川から嶽山観音堂を目指して上り始めると、丁石(道標)があり、参道の各所には神楽石・亀ヶ岩・賽の河原(冥土の三途の河原)・白坂・弁慶の切石などの奇岩類が散りばめられ休息のひとときを提供しています。中腹には目指す観音堂が設けられ、参詣者はここで朝早くから祈禱を受けました。観音堂から更に尾根を歩き続けると、嶽山の頂上に到達します。そこには石窟(いわや)が造られてその中に立派な石造の舟形光背(仏像の背後につける光明をあらわすもの)に



長谷寺のご本尊である十一面観音立像が見事に丸彫されています。山頂からは高島平野や、遠く江若国境の山並みまで見渡せる位置にあります。信仰の山にふさわしいたたずまいです。

平成5年(1993年)、嶽山の中腹にあった観音堂は、里山の大炊神社東側にうつされ、新たに観音堂・薬師堂・太子堂が一つのお堂に納められました。

琵琶湖畔の景勝地、萩の浜から望む嶽山の形は、美しい円錐形をしており、見る者をいつしか悠久の時に誘いそうです。私たちは、このような素晴らしい景観の中で生活していることの喜びを、実感することが大切と考えます。

(資料館)

### 編集者のつぶやき

東日本の被災地への支援物資にたくさんのご協力をいただきありがとうございました。思いのこもった大切な支援物資は、4月7日(木)に、高島商人進出の地として交流のある岩手県宮古市と岩手県へ、当市職員が直接お届けしました。現地の方は喜ばれたことと思います。(広報担当S)

